

第2回山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会議事録（要旨）

開催年月日 平成18年8月24日（木）

開催場所 山県市役所 3階303会議室

山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会委員出席者

学識経験者（1名） 岐阜大学教育学部副学部長 小井土由光

市議会議員（1名）

市自治会連合会役員（3名）

市PTA連合会役員（1名）

市立保育園保護者会役員（3名（うち代理出席1名））

市立小中学校長会役員（3名）

山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会委員欠席者

市PTA連合会役員（2名）

山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会事務局出席者

市教育委員会教育長 小林 園 之

教育次長 土 井 誠 司

学校教育課長 土 田 千 隆

学校教育課主幹 上 野 達 也

学校教育課課長補佐 河 村 一 彦

日程

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 日程等説明
- 4 前回会議録の確認
- 5 審議（21世紀を生きる子どもたちの教育について）
- 6 次回の委員会予定
- 7 閉会

1 開会（司会進行：教育次長）

午後2時開会

2 委員長挨拶（主旨経過・委員会要綱説明）

・審議内容は簡単なことではないが、なるべく要領よく審議をすすめたい。

3 日程等説明

・前回の資料の一部を差し替えさせていただく。公開しているホームページ上の資料はすでに差し替え済みである。

4 前回会議録の確認

（略）

5 審議（21世紀を生きる子どもたちの教育について）

○委員長

・この会の主目的は、諮問内容2の学校の適正な規模等の検討であるが、

それを議論する前に、諮問内容1の「21世紀を生きる子どもたちの教育」についてご意見をいただきたい。

- ・このテーマは、なかなか難しい問題だとは思いますが、今後の21世紀を生きる子どもたちのために皆様のご意見をいただきたい。

委員

- ・先日、「市長さんと語る会」で、中学2年生を対象に市が行なったアンケート結果が話題になった。「あなたは将来も山県市に住み続けたいと思いますか？」という問いに、「ずっと住み続けたい」という生徒は7.8%、「一度は外に出てもいつかは戻りたい」が32.8%であった。この数字をどうとらえるかだが、7.8%は少ないと感じる。何とかずっと山県市に住む人を増やしたい。定年退職してからでなく、働きながら住んでほしいと思う。仕事を通して社会に貢献できる人間を育てることが大切だと感じる。そのためにはどういう人間を育てる必要があるか、考えなくてはならない。

委員長

- ・この子どもの意識は大切にしたい。

委員

- ・将来のことを考えると、ふるさと山県というふるさと意識をもつ子どもを育てることが大切だと思う。
- ・旧根尾村には従来7つの小学校があった。それが過疎化、少子化の影響で最終的には平成11年に1校に統合された経緯がある。この時、学校は使われなくなるが、その学校・地域を愛するふるさと意識を大切にすることを指導の重点にされたと聞いた。
- ・本日のテーマは、「21世紀を生きる子どもたちの教育について」だが、それには学校の適正規模もかかわってくる。

委員

- ・子どもの教育を考えると、学校の環境整備により質の高い教育をしていただきたい。その中で、子どもの個性を伸ばす教育を期待したい。
- ・伊自良地区は、合併前色々なことがあった。人口が増え、子どもの数も増えてきたが、現在は頭打ちの状態。転入される方は、伊自良でも南地区が多い。
- ・田舎は不便という印象があるが、そうばかりではない。インターネット等情報化が進み、在宅でも仕事できる時代になりつつある。田舎は田舎のよさがある。恵まれた自然環境で、子どもの数が少なく、教師の目が届きやすいよさもある。
- ・現在の伊自良北小の環境を見ると、悪くはない。もう少し、児童数が多いとよいとも思う。
- ・適正規模の検討については、数字だけで弱者を切り捨てないようにしたい。

委員

- ・現在、複式で授業行なわれているところでは、教室の前と後ろに黒板が

あり、授業に集中するかどうか不安だったが、子どもは落ち着いて授業に向かっている。

- ・体育の授業では、たった4人でドッジボールのような競技は成立せず、縦割り集団でやるのは当たり前になっている。上の学年の子が下の学年の子の面倒を見るなど良い点もある。しかし、何をするにも一つの学級ではできない不便さもある。

委員

- ・先ほど旧根尾村のことを少し話題にした。私が聞いたのは、3校から1校になった頃の話。3校とも児童数減少により、様々な教育活動や学校行事が停滞し、学校統合は必然であった。もちろん、様々な意見はあったと聞いているが。

委員長

- ・他地域のことであり、参考に留める。

委員

- ・保護者の中でもさまざまな考えの方がある。ある方は、伊自良北小校区在住だが、勤務が伊自良南小校区であるので、子どもを南小に通わせたいと思ってみえる。また、もし伊自良北小と南小が統合したら、北小のよさが消えてしまうことを心配してみえる方もある。
- ・母校がなくなるのもさみしい。人数が少ないから統合という考え方もいかなものか。市全体で、人口を増やす方法を考える必要がある。

委員長

- ・次回、校長先生方には、学校として機能する、成り立つ条件を示していただきたい。学校だけの条件でなく、地域の条件も重要だ。

委員

- ・学校での教育内容は学校規模によって異なるのか。

教育長

- ・義務教育の内容は学習指導要領により保証されるべきものであるため、学校規模や山県市立学校であるなしにかかわらず不変である。学校規模が小さいからといって学習内容が異なるわけではない。

委員

- ・小規模の学校で学習した子どもと、ある程度の人数規模の学校で学習した子どもとの違いのようなものは出てくるのか。

委員

- ・以前理科である調査を行なった。一つの事象を見た時、どんなことをどれくらい見つけられるかという調査を少人数集団と多人数集団で行なってみた。その結果、子どもたちが見つけた事柄の数はほとんど差がなかったが、多人数集団の子どもたちの方が思考の幅は広がった事実がある。
- ・子どもたちの学習に対する評価は、現在絶対評価であるため集団が何人でも同じである。

委員長

- ・大学生ともなれば、小中学校の規模は問題ではない。目に見えることだけで判断してしまうのは危険である。
- ・皆さんの発言がやや「適正規模」にかかわる内容に近づいている感がある。教育を「生きる力」という観点から見た時どう思われるか意見をいただきたい。

委員

- ・「生きる力」と言うが、学校では根本として知・徳・体の3つは不変と考える。この3点を大切にすれば「生きる力」を付けることができるはず。その時代によって多少のニーズの違いがあろうが、味付け程度の問題で根本は同じ。学校の教育目標や校訓なども同様で、知・徳・体の3つにかかわることが多い。

委員

- ・学校は、子どもに本当に力を付けていけないといけない。学力、仲間にかかわる力（社会性）や体力等。それにはどのくらい的人数が一番有効なのか考えなければならない。また、学校が組織として動く時どのくらいの規模が適当かも大切で、この視点からの議論も大切である。

委員長

- ・本日欠席されている委員さんから文書をいただいている。それには、「体験」「継続」「基礎学力」が大切と記されているので、皆さんにお伝えしたい。

委員

- ・なぜ、この会を開くことになったのかを事務局にお尋ねしたい。

教育長

（検討委員会への諮問理由書に記載のとおりであるため略）

6 次回の委員会予定

- ・日時：平成18年10月23日（月） 午後2時から
- ・場所：山県市役所 3F 303会議室

7 閉会

午後3時30分閉会

上記会議録（要旨）は正当であることを認め署名します。

山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会

委員長 小井土 由光